

第3回瀬戸市基本構想審議会 議事録

- 1 日 時：令和8年3月25日（水）午後2時から午後4時まで
- 2 場 所：瀬戸市役所 北庁舎4階庁議室
- 3 出席者：瀬戸市基本構想審議会委員12名（うちオンライン参加3名）
 - 石川 良文（南山大学総合政策学部 教授）
 - 鷲見 英利（株式会社官民連携事業研究所）
 - 林 ともみ（ラジオサンキュー／瀬戸市障害者地域自立支援委員会）
 - 橋本 美香（大橋運輸株式会社）
 - 神田 すみれ（多文化ソーシャルワーカー）
 - 浦田 真由（名古屋大学情報学部 准教授）
 - 伊藤 和真（株式会社PoliPoli）
 - 吉澤 克哉（東海旅客鉄道株式会社）
 - 野々垣 賢人（瀬戸くらし研究所／株式会社きんつぎ）
 - 石川 圭一（土街人プロジェクト／株式会社双寿園）
 - 堀部 篤樹（愛知産業大学通信教育部造形学部 准教授）
 - 水谷 香織（名古屋学院大学現代社会学部 准教授）
 瀬戸市長 川本 雅之
 事務局（瀬戸市企画部政策推進課）6名
- 4 欠席者：委員 梅村 佳範（朝日インテック株式会社）
- 5 傍聴者：0名
- 6 議題及び議事内容：以下のとおり

発言者	内 容
1 開会（市長あいさつ）	
市 長	<p>前回は、2040年を見据えたこれからのまちづくりをテーマに第1回審議会での意見の深掘りや、活かしたい瀬戸市の付加価値・ポテンシャルについて活発に意見交換をしていただいた。本日は、これまでに委員の皆さまから頂戴したご意見や、アンケートをはじめ様々な手法で市民の皆さまからいただいたご意見を踏まえて検討した、基本構想の方向性についてご審議いただきたい。</p> <p>基本構想は、市政における最上位の方針であり、2040年における理想のまちの姿を市民の皆さまと共有する重要なものである。前回に引き続き、活発な意見交換をお願いするとともに、瀬戸市での理想の暮らしの実現に向けた計画策定にお力添えをいただきたい。</p>
2 協議事項	
(1) 次期瀬戸市将来計画 基本構想について	
事務局	（資料の要点を説明）
石川会長	事務局から説明のあった基本構想のたたき台に関して、将来像の方向性がこれで良いか、将来像の実現に必要な要素に不足等がないかについて、ご意見をいただければと思う。

発言者	内 容
伊藤委員	<p>瀬戸ならではの、やきもののメタファーを使って基本構想を作成するというのはクリエイティブであるし、面白いと個人的には感じた。また、2040年に対して、次世代から考えると危機感を持っており、左側の前提として書かれているものも課題感を通じて理解した。教育や多様性等、人についてフォーカスしているところも瀬戸市らしさを感じる。</p> <p>付け加えるとしたら、将来像の実現に向けた定量的な目標があると良いと考える。要素としては、「稼ぐ」という視点をさらに深掘りしたいと思う。良いまちになっていく条件は個人的に3つあると考えており、1つ目は「この市と言えば〇〇」というフォーカス、2つ目はまちが良くなっていく勢い（モメンタム）があること、3つ目は民間・行政を含めたリーダーの存在である。瀬戸市が産業や人の増加で稼いで、どんどん発展していくという感覚があるときさらに良いのでは。</p> <p>「技術」の中にあるデータに基づくまちづくり（EBPM）は、本当に重要なことだと感じており、入れていただいて良かった。地方創生における総合戦略においても、KPI やロジックモデルを作って終わるのではなく、データに基づいて、日々改善していけると良いのではないか。</p> <p>まとめると、2040年への危機感、人へのフォーカスは素晴らしい。付け加える視点として、定量的な目標、「稼ぐ」視点、日々のデータに基づくまちづくりの視点がさらに追加されると良いと思った。</p>
石川委員	<p>「稼ぐ」というキーワードについて、陶磁器メーカーの観点から考えてみたが、原価率の計算の甘さ等、ディフェンスの部分が全然できていないと感じた。そういったところから、見直す必要があるのではないか。</p>
伊藤委員	<p>稼ぐ視点から考えると、瀬戸のやきものは周辺都市と比べて、特異的な資源であると思うので、付加価値を高められることを一つの軸にしていけると良い。</p> <p>また、愛知県全体の課題かもしれないが、ジブリパーク等をはじめとする観光産業といった視点も大切だと思う。</p>
石川会長	<p>瀬戸市におけるやきもの産業について、しっかり守っていくとともに、付加価値を付けていくということも「稼ぐ」という意味では重要である。</p>
吉澤委員	<p>「稼ぐ」という話でいくと、もう少し企業に関することが出てくると良いのではないか。</p> <p>また、人口減少にクローズアップしており、外からの関係人口をイメージして資料を作成していると思うが、今の住民がどうやって挑戦し、まちの担い手になるかということも非常に大事だと感じる。地域に今いる人たちが、どう化学変化に加わっていくのかも考えていけると良い。</p> <p>化学変化が起きる仕組みを構造化することで、伊藤委員の発言にあった定量的に評価できるかに繋がると思う。</p> <p>また、「窯変」のように、化学変化の結果はどうなるか分からないが、それ自体を多様性として一つの良さとして捉え、瀬戸らしいダイバーシティにも繋がっていくと考えられるため、「化学変化」というワードはすごく良いと思った。</p>

発言者	内 容
石川会長	<p>瀬戸市にはやきもの以外の産業もあるので、どう稼いでいくか、もう少し打ち出されても良いかと思う。</p> <p>また、「人の関わり」という観点から、これまで関係人口に関する話が色々出てきていたが、今、瀬戸に住んでいる人たちが、関係人口とどう関わって新しい化学変化を起こせるか、という視点も大切であると感じた。</p> <p>吉澤委員の発言のとおり、「窯変」のように、どう変化していくか分からないということも、面白いところであり、瀬戸らしいものであるとも思う。</p>
水谷委員	<p>「稼ぐ」というキーワードは、必須であると思うので、ぜひ海外にも目を向けてもらいたい。瀬戸のやきものは海外でも通用するものであることから、親日国をターゲットとした販路拡大は一つの手であり、安く売るのはなく良いものを高く買ってくれる場所であると考えている。個人や一企業では難しいと思うので、市として海外輸出を支援できると良い。</p> <p>また、将来像イメージの中で「0から1を生み出す」とあり、増やすことも重要であるが、これからは「1から0にする」こと、つまり何を残して何をやめるかという断捨離の考えも大切なのでは。不要なものはなくし、省力化することも、2040年に向けて必要な視点である。</p>
石川会長	<p>人口減少もあり市内の内需は大きく増えないと思われることから、海外に目を向けることは大切である。</p> <p>また、増やすだけでなく減らすことも重要な視点で、昔からの慣習をはじめ、不要なものがないかを改めることが必要なのでは。</p>
野々垣委員	<p>資料を拝見した感想として、すごくワクワクするものであり、楽しみに感じている。その前提で、2点意見をお伝えする。</p> <p>1点目は、「地域資源」の深掘りや捉え直しを改めて行うべきであるということ。やきものの文化・歴史や自然環境だけでなく、温かい人との繋がりのような、目に見えない地域資源もあると思う。ハード面だけでなく、ソフト面からも地域資源を深掘りすることで、うまく価値が発揮できる計画になるのではないかな。</p> <p>2点目は、「挑戦が育つ学びをつくる」に関して、瀬戸には中心市街地の空き店舗補助金やせと・しごと塾などの支援制度があり、今でも挑戦しやすいまちであると思うが、今後さらに発展させるため、その仕組みを「見える化」する必要があると考える。</p> <p>「なぜ瀬戸は挑戦しやすいのか」を整理し、広く発信することで、「瀬戸に来れば自己実現ができる、チャレンジできる」という認知が広まり、外から人が入ってくるきっかけになるのではないかな。</p>
石川会長	<p>瀬戸の地域資源というと「やきもの」が一番にあがるが、それ以外にもたくさんの良い資源があるはず。人とのつながりもその一つで、瀬戸ならではの良さがあり、だからこそ挑戦できるという土壌・風土があると感じている。</p> <p>それ以外に、大学コンソーシアムの存在も大きく、多数の大学生が活動しており、若者の関係人口ができる。そのようなところも瀬戸の地域資源や人的資源を生んでいるのではないかな。</p>

発言者	内 容
橋本委員	<p>人とのつながりという点で、たたき台にもあったようにコミュニティの場が不足していると感じている。</p> <p>会社として、以前から地域の方が集まれる場の提供を行っているが、現在は少し規模を大きくし、気軽に来られる場の提供だけでなく、健康セミナーのように情報を発信する活動を行っている。その中では、瀬戸の文化・歴史に紐づけた取組はできていないが、今後そうした要素を取り入れることで、自身の健康だけでなく、人生の楽しみに繋がるような、交流の場にしていきたいと考えている。</p> <p>その交流の場が、高齢化・核家族化が進む中、横のつながりによる支え合い、医療との連携、海外の方との参加など、様々なところに繋がっていくのではないかと。また、その取組を通じてまちが活性化していけば、瀬戸ならではの人の親しみやすさというアピールポイントにもなるのでは。</p>
石川会長	<p>人口が減少する中で、人と人とのつながりを密にすることは、色々なものが生まれるきっかけとなり、大事にしていきたいと感じた。</p>
林委員	<p>やきものの本質である「釉薬・火・土・技術」は大切なものであると思っており、基本構想に表現されていることはとても良いと感じた。ただ、素晴らしい作品を生み出すには「作り手」の力も必要であると思うので、未来の市民や関係人口を含め、瀬戸に関わる人たちを指す「作り手」という言葉を追加しても良いのではないかと。</p> <p>また、「稼ぐ」という視点も非常に重要であり、福祉の観点から見たときに、障害のある人、引きこもりの人、生活保護を受けている人、外国人や高齢者を含めてどんな人でも稼ぐことができ、税金が納められるような仕組みができると良いと考えている。</p> <p>午前中、病院の地域サロンに参加してきたが、認知症予防だけでなく、認知症になっても安心して歩けるまちであり、人とつながれる社会をつくることの大切さを改めて感じた。</p> <p>伊藤委員の発言のとおり、やりたいことは個人によって様々であるが、教育や福祉など、「瀬戸といえば〇〇」のように言える特徴があると、より分かりやすいのではないかと。</p>
石川会長	<p>「稼ぐ」には様々な意味があり、「地域全体として稼ぐ」「産業や事業所として稼ぐ」だけでなく、「様々な事情を抱えた人や多様な人が、稼ぐことで自信につなげる」という視点もある。</p> <p>また、「作り手」という言葉も、瀬戸では15年ほど前からキーワードとして使われており、瀬戸焼に限らず様々なツクリテがいるという広い意味で用いられてきた。こうした言葉を改めて大切にしていけることが重要である。</p>
浦田委員	<p>関係人口や多様な人材の活躍というところを踏まえ、大学という立場から2点お話ししたい。</p> <p>1点目として、産学官民連携の観点から「学」の視点を加えてほしい。まちづくりにおいて、大学の知見や大学生の若い力が加わることで、構想のキーワードである「化学変化」を起こす重要な要素になると考えている。関係人口を増やす上でも「学」を記載していただきたい。</p>

発言者	内 容
浦田委員	<p>2点目として、「稼ぐ」という観点に関して、瀬戸市のブランド価値向上と外部への発信強化が必要であると考えている。構想にある取組は素晴らしいと思うが、今後は瀬戸市の地域イメージをどのように作り、外に見せていくかが重要になる。地域で良い化学変化が起きても、外に知られていなければ新しい人も入ってこないため、まちの魅力を積極的に発信する視点を明確に打ち出しても良いと思う。</p>
伊藤委員	<p>やきもの産業について、まずは打てる施策で現状を改善する必要があると感じている。また、事業承継に関しても、補助金による支援や、場合によっては既存のノウハウの統合により、意欲のある経営者が事業を継続できるようにしていくことが必要である。こうした取組を、市として経済政策の一環として進めても良いと思う。</p> <p>また、企業誘致については、稼げる人材を呼び込むことは重要であると思うが、スタートアップは東京に集中せざるを得ないという現実があり、瀬戸市にスタートアップの本社を誘致するのは現実的ではないと感じている。瀬戸市が誘致すべきなのは、陶芸家やクリエイター、あるいはスモールビジネスとして事業を成立させていく人々であり、こうした人材の誘致が、瀬戸市における「稼ぎ手」を確保する上で重要であると考ええる。</p> <p>シティプロモーションについては、ターゲットを絞り、フォーカスした層を引き寄せることが重要である。個人的に考えているターゲットは二つあり、少し尖った価値観を持つ子育て世代や、教育への関心が高い子育て世代と、若者や大学生を含む作り手・クリエイター層である。藤井聡太さんや、アーティストや起業家を輩出していること、住みやすさ等の瀬戸市の強みを、ターゲット層に向けてプロモーションできると面白いのではないかな。</p>
石川会長	<p>シティプロモーションの観点からのご意見だったが、居住する人だけでなく、企業誘致に関しても、全方位ではなくターゲットを絞った瀬戸らしい取組が重要になると思われる。</p> <p>また、やきもの産業は瀬戸の根幹の産業であり、事業承継が上手にできなければ無くなってしまいますので、若い人がやきもの業界にチャレンジできる取組も必要である。</p>
伊藤委員	<p>学生時代に瀬戸に住む理由を問われたとき、瀬戸が好きであるという漠然な理由があったが、明確な反論ができなかった。</p> <p>瀬戸の良さを明確に打ち出していけると、モメンタムや尖りができていくのでは。</p>
石川会長	<p>誇りや愛着の醸成にも関わってくる話である。自分が自信をもって「瀬戸市出身である」と、明確な理由をもって言えるようになると良い。</p>
神田委員	<p>福祉の視点から、「多様性」という言葉はあるが、「包摂性」等の言葉がない。「稼ぐ」という言葉は、社会に関係する、感謝されるという言葉に置き換えることもでき、どのようにそれが実現していくのかが大事なポイントになる。</p> <p>また、教育の視点では、人口減少が進む中、誰かと共に何かを生み出す力を子どもたちが培える教育をしていくことが重要になる。吉澤委員の発言にもあったが、外からくる人・起業も大切だが、今いる人たちを大切にするという視点は外してはいけない。</p> <p>瀬戸のやきものについては、これまで地域が培ってきた資源や経験値を価値観として引き継いでいき、大切にしていけることが必要なのではないか。</p>

発言者	内 容
神田委員	<p>少ない人数でコミュニケーションをとりながら一緒に何かを生み出す人を育てていくという意味では、せと・しごと塾に非常にお世話になった。自分はその仕組みがマッチしたが、幅広い層に対する様々な行政の仕組みがあり、そこから化学反応を起こすようなものに繋がると良い。</p> <p>海外・観光という視点では、オンラインでの商談に参加しやすい仕組みづくりや、ジブリパークを核とした観光ツアーなどの取組ができると良いと思う。外からのアドバイスをもらい、雇用を生み出すことが大切なのは。</p> <p>最後に、外国人・多様性という観点では、第2世代・第3世代の子どもたちも地域で育っており、「今いる人を大切に」観点からも、包摂的な地域づくりが重要である。すべての人が地域で活躍し、共に楽しみながら地域を支えていく環境づくりが必要なのではないか。</p>
石川会長	<p>教育を通してつながる場所が、小中学校でもあり、大人になってからのせと・しごと塾のようなところでもある。人とつながり、誰かと一緒に何かができるという土台が瀬戸にはあるので、上手に活用することが重要である。</p>
伊藤委員	<p>愛知に興味を持つ外国人は多いが、一方で、瀬戸には海外の人に対応できるホテル等の供給側が不足していると感じている。</p> <p>市民との協働によるまちづくりという観点では、例えば実家が空いている人が民泊を行ったり、海外向けのツアーを企画したり、ジブリパークへの案内をしたりと、既存のホテルだけに頼らず、市民を巻き込む視点があっても良い。苦手意識があるかと思うが、実際に会ってみてマナー良く過ごしている外国人がいて、もっと身近に感じられ、瀬戸らしいダイバーシティの実現にもつながるのではないか。</p>
堀部委員	<p>資料を拝見して、瀬戸らしさを感じて驚きがあり、職員の方も瀬戸に愛着を持っているように感じた。</p> <p>ただ、今いる子どもたちを対象とした教育の話が抜けている気がしている。以前、愛着や誇りの話が出ていたので、そのあたりを補強してもらえると良い。</p> <p>チャレンジに関しては、民間だけでなく、行政の人にも取り組んでもらいたい。また、大人だけでなく、子どもたちもチャレンジしていく必要があり、学校教育の場面でもチャレンジして失敗から学ぶことができる瀬戸らしい教育を展開して欲しい。探求学習を活かし、高校や大学、地域の大人と共に学べる機会の展開もできると良い。</p> <p>生涯学習・社会教育の場面から、民間事業者と協力しながら、子どもたちがものを作って売るといった「稼ぐ」体験が展開できると、チャレンジ精神も生まれ、地域の人とのつながりも生まれるのでは。</p> <p>先日、熊本県天草市を訪問した際、瀬戸市と関わりがあったことを知り、とても驚いた。様々なデジタルツールを活用し、学校教育の中で外部とつながることで、子どもたちが瀬戸を見つめ直し、愛着と誇りが生まれるきっかけになるのではないか。</p>
石川委員	<p>自身の子どもが通う小学校では、授業の一環で近くの商店街を訪問して学ぶというプログラムがあるが、授業以降、子どもが商店街に興味を持ち、買い物や遊びに行ったりしている。市内の私立中学校では、生徒が自分たちで行う企画のスポンサー集め等も行っていると聞いている。そのような面白みのある教育を、少しずつ各学校でチャレンジしていけると、様々な世代に広がりが出るのではないか。</p>

発言者	内 容
鷺見委員	<p>広報や教育にも繋がっていく話であるが、日本で3人しかいない「企業版ふるさと納税」のマッチングアドバイザーとしての観点を踏まえて発言させていただく。</p> <p>企業版ふるさと納税の寄附金を多く集めている自治体は、官民連携事例の多いところが大半である。多くの良質な企業との関係を持つ自治体が、自治体間の競争に勝っていく時代になるのではないかと考えている。</p> <p>先ほどから出ている「稼ぐ」というキーワードに関して、「稼げる」とは「チャンスが多い」ということであると考えている。これまでの「一つの企業と自治体が官民連携により社会課題解決ができてよかった」という時代は変わりつつあり、これからは官×民×民の連携や、コンソーシアム等の仕組みがトレンドになってきている。</p> <p>仕組みを作るだけではなく、「自治体×地元企業×大企業」や「自治体×スタートアップ×大企業」のような、自治体が環境となつて、責任ある複数の企業が個人を含めて混ぜ合わさり、官民連携の形で表現出来ていくことが、これからの瀬戸市における必勝パターンになるのではないかと考えている。</p> <p>官民連携によるビジネスチャンスの豊富さ、新しい機会の創出は学びにも繋がる。そうした取組が多数あり、実現できているということは「多くの企業が集まるまち」「様々なチャンスがつくれる自治体」として広く発信でき、良質な関係人口を呼び込むきっかけとなる。そのサイクルをつくるのが、自治体の勝ち筋であると感じている。</p>
林委員	<p>先日開催された、瀬戸市のキャリア教育20周年イベントには、21社の市内企業の参加があり、小学生100人の枠に600人ほどの応募があった。</p> <p>アンケートでは、「瀬戸にこんなに企業があること知らなかった」「市内企業を知ったことで、子どもたちが瀬戸に愛着を持った」という意見をいただいております、子どもたちに市内企業を知ってもらう取組も大切であると感じた。</p>
石川会長	<p>市内には認知度の高い楽器を製造している工場があり、学生時代に友人に自慢をしたこともある。市内の様々な企業を子どもたちが知ることで、瀬戸の良さを改めて認識でき、愛着や誇りの醸成につながるきっかけになると良い。</p>
水谷委員	<p>専門分野である住民参加型の政策立案・策定プロセスの観点から発言させていただく。</p> <p>本日はビジョン（将来像）に関する議論を行っているが、自治体の理念が何かを考えられると良い。この先、変動の多い時代を迎えるが、瀬戸市の存在理由、究極の目的「何のための瀬戸市か」を改めて整理し、共有すると良い。</p> <p>自治体理念の試案としては、「①市民が人生の意義を全うするために支援する、②市民の生活と行動品格の進歩・向上を推進する、③市内並びに社会全体の平和と幸福に寄与する」のようなものがある。北極星のように自治体理念を掲げ、その途中に基本構想を据えることが大切だと考える。</p> <p>また、理念を掲げることにより、抽象度の高い視点・観点を市民が分かりやすく実感でき、職員も目的が明確になることで、やりがいに繋がっていくのではないかと考えている。</p>
石川会長	<p>計画論の観点からご発言いただいた。行政として「何のために、何をすべきなのか」という軸を、忘れないようにしていただければと思う。</p>

発言者	内 容
伊藤委員	<p>瀬戸市は周辺都市に比べて負けているイメージがあり、再ブランディングが必要だと感じている。</p> <p>シティプロモーションとして、面白い人や尖ったところにフォーカスした企画を考えてほしい。合わせて、人口の確保を視野に入れた、近隣市町の子育て世代にしっかりと刺さる視点も必要である。</p> <p>基本構想の方向性としては大賛成なので、引き続き議論して深めていきたい。</p>
石川会長	<p>市民は瀬戸市に対してネガティブな印象を持っている人が多く、外の人には「瀬戸は何もないところ」と思われがちであるが、様々な魅力・資源はあるので、それらをどうシティプロモーションで売り出していくかが重要になるのでは。</p>
野々垣委員	<p>伊藤委員の発言にもあった、空き家を活用した民泊の実施などが、まさに「土」の部分にある「空き家などの課題に伴う新たな可能性」というところになる。</p> <p>空き家の調査を独自で行っているが、空き家として認識していない人、貸す意志がない人など、様々である。空き家の活用により、こんな可能性が生まれるという、その先にある未来の姿を共有しないと、上手に流通していかないと感じている。</p> <p>観光分野でも同じであると感じており、何かを始めることで、まちにどのような影響があるか、この地域に暮らすとどのような良いことがあるかという視点で、少し先のところを見せていかなければ、何事も上手にいかず、共通認識として醸成されていかないのではないか。</p>
石川会長	<p>活動は非常に大切であるが、手段だけ伝えても中々理解を得ることは難しい。「何のために行うのか」という理念や視点も大切である。</p> <p>これまでの審議の内容を改めてまとめさせていただく。</p> <p>本日の議論では、基本構想においては「何のために」という理念を明確にすることが重要である。</p> <p>特に「稼ぐ」については、多数の委員からご発言をいただいた。地域で稼ぐことにより税収増加や新たなチャレンジが可能となる一方、人口減少や企業減少により稼げない状況では地域の活力が低下してしまうため、重要なキーワードである。</p> <p>人とのつながりについてのご意見も多くいただいた。学校教育における地域連携・探求学習の推進や、社会人の学び・交流の場の創出、外国人や多様な背景を持つ人々の活躍の場の拡大など、多様な人材がつながり活躍できる仕組みができればと思う。</p> <p>産業としては、やきもの産業はもちろんのこと、それ以外の企業も含め、人口減少社会において外にどう売っていくか、より広げていくことが必要である。また、瀬戸市の資源や近隣の観光資源（ジブリパーク等）を活かし、人を呼び込む取り組みを進めることも重要であり、これらは「稼ぐ」「人のつながり」などの要素と相互に関連していると考えられる。</p> <p>本日も、多様な意見を皆さまからいただいた。事務局において整理・取りまとめを行い、基本構想案に反映させたいので、次回以降の議論につなげていただきたい。</p>

発言者	内 容
(2) 瀬戸市の関係人口創出に向けて	
事務局	(資料の要点を説明)
石川会長	事務局から説明のあった瀬戸市の関係人口創出、特にシティプロモーションに関して、これまでの議論に関係することでも構わないので、ご意見をいただきたい。
野々垣委員	メインターゲットを30代から50代にシフトした理由は何か。インスタグラムの利用者からだけなのか、こういう観点で決まったという経緯があればお聞きしたい。
事務局	30代から50代の層は、インスタグラムの利用者層としてだけではなく、ふるさと納税のボリュームゾーンでもあるため、そこを狙っていきたいという想いはある。 それ以外に、瀬戸への来訪者の年齢層は30代後半の方が多というデータもある。
林委員	「ファンとして関わってもらえる」、「遊びに来てもらう」という観点で考えられているのか。リターンまでは含まないか。
事務局	ファンとしての関わりからはじめ、最終的には地域と一緒に盛り上げてくれるパートナー的な存在になっていただきたいとの意味を込めている。 シティプロモーションの方法については、以前委員からもご意見をいただいたかと思うが、東京を目指してはいけないと我々も認識している。東京のように、様々な人脈やチャンスは瀬戸にはないが、「瀬戸にしかない魅力」をどのようにPRしていくべきかという観点も踏まえ、本日は議論いただければと思う。それにあたり、ターゲット層の年代や、関係人口の創出を目指して良いかなど、忌憚のないご意見を頂戴したい。
水谷委員	可能性はたくさんあると思っている。瀬戸の貴重な価値であるクリエイターを育て、海外展開をすると強いのではないかと。海外の場合は、CtoGが増えている。個人がSNSで政府の方とつながり、直接やりとりすることができる。そこを市が支援して、全体を盛り上げていくということは、戦略として一つの手である。 様々な人から出た意見を深めて、ビジョンとして動画で描く方法も良い。ビジョンを動画化しようとする中で、具体的に考えなければならぬし、それを見るだけで分かりやすく伝えることができる。市民の皆さんの理解と協力が得られやすくなるのではないかと。
吉澤委員	関係人口を考えると、外の話に着目しがちだが、シティプロモーションは外向きだけでなく内向きの発信も重要である。それを踏まえると、「関係人口の創出」よりも「まさに化学変化を起こしてくれるパートナーをつくる」というところを目的・テーマに据えた方が良いのではないかと。 その際、メインターゲットは、年齢層だけでなく地域内外やテーマによって変わってくるので、もう少し深掘りする必要がある。 今回の将来像キーワード「化学変化」は動的であるため、その動きがきちんと見えるようにした方が良い。難しいとは思いますが、どのように共有していくか、そういったところを突き詰められると面白いと思うので、パブリックリレーションズのような視点を持って考えていくことが必要なのでは。

発言者	内 容
石川会長	<p>年代を絞ってターゲット層を考えていると思うが、「化学変化を起こす」や「チャレンジができる」という人たちを見据えて、瀬戸でチャレンジしたくなる、関係を持ちたくなるということが伝わるプロモーションができると良い。</p> <p>また、市内の人も、プロモーションによりチャレンジをしたくなったり、外の人たちと一緒に何か活動したくなったりするというような、大きな流れが必要である。</p>
浦田委員	<p>総務省で検討が進められている「ふるさと住民登録制度」について、瀬戸市として考えていることがあるかをお聞きしたい。</p>
事務局	<p>3月中に概要が周知される予定であり、詳細は把握できていないが、国の制度を活用していく予定である。ただ、瀬戸らしい関わり方をしてもらえる人や、市民の中でもどういった層に、関係人口と一緒に組み合わせるかを磨き上げながら進めていければと考えており、次期将来計画の目的に合う形で、制度を活用していければと考えている。</p>
浦田委員	<p>瀬戸市がどのようにこの制度を活用していくか、並行して考えられると良い。</p>
3 その他	
事務局	<p>(令和8年度の予定について報告)</p>
4 閉会	

以上